

お客様各位

2017年6月16日  
北興化学工業株式会社

## 農薬登録情報

2017年6月14日付で下記農薬の適用が変更登録されたので、ご連絡申し上げます。

### 記

**農薬名**

第21486号 *BASF大豆バサグラン液剤 (ナトリウム塩)*  
(登録会社 BASFジャパン株式会社)

**適用変更の内容**

- ・作物名「だいず」の使用時期「だいずの2葉期～開花前(雑草の生育初期～6葉期)但し収穫45日前まで」の使用方法を「雑草茎葉散布又は全面散布」に変更する。

**【変更前】**

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンタゾンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
だいず	一年生雑草 (イネ科を除く)	だいずの2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) 但し収穫45日前まで	100～150 mL/10a	100 L/10a	1回	雑草茎葉散布	2回以内 (畦間処理は1回以内)
		だいずの生育期 (雑草の生育初期～6葉期) 但し収穫45日前まで	300～500 mL/10a			畦間雑草茎葉散布	

**【変更後】**

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンタゾンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
だいず	一年生雑草 (イネ科を除く)	だいずの2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) 但し収穫45日前まで	100～150 mL/10a	100 L/10a	1回	雑草茎葉散布 又は 全面散布	2回以内 (畦間処理は1回以内)
		だいずの生育期 (雑草の生育初期～6葉期) 但し収穫45日前まで	300～500 mL/10a			畦間雑草茎葉散布	

## 使用上の注意事項

(2) として以下の事項を追加し、全体を【変更後】のとおりとする。

(追加事項) (2) 雑草茎葉にかかるよう、まきむらのないように均一に散布すること。

### 【変更後】

(1) だいたいの品種によっては薬害により減収する場合があるので、本剤の使用に当たっては病害虫防除所等指導機関の指導を必ず受けること。

(2) 雑草茎葉にかかるよう、まきむらのないように均一に散布すること。

### <薬害に関する注意>

(3) 本剤の使用により、だいたいの葉に斑点、色抜け、黄変、縮葉症状の一過性の薬害を生じる。

また、薬害の程度及び薬害の回復は品種により異なり、減収となる場合もあるので、使用者の責任において事前に使用品種における薬害の程度を十分確認してから使用すること。

また、新2号、操、山白玉では、強い薬害が発生するので、本剤の使用をさけること。

なお、次の品種では本剤の使用により減収となった事例が報告されている。

- ・ タチユタカ、ゆめみのり、オオツル、オクシロメ、コケシジロ、コスズ、すずおとめ、すずこまち、タマホマレ、トヨコマチ、トヨハルカ、トヨムスメ、ナカセンナリ、納豆小粒、ナンブシロメ、フクシロメ、ユウヅル、ユキホマレ、ワセシロゲ

(4) 薬害を助長するので重複散布はしないこと。また、以下の場合には薬害を助長することがあるので使用はさけること。

- ① 著しい高温が続く場合
- ② 日射が強く、蒸散が盛んな場合
- ③ 低温、湿害、肥料不足等によりだいたいが生育不良の場合

### <効果に関する注意>

(5) イネ科雑草には効果がないので、イネ科雑草の優占圃場での使用はさけること。

また、イネ科雑草が混在する場合は、これらに有効な除草剤との体系で使用すること。

(6) アカザ科、ヒユ科の雑草には、低薬量では効果が劣るので、これら雑草の優占圃場では、畦間雑草茎葉散布で使用すること。

(7) トウダイグサ科の雑草には効果が劣るので、この雑草の優占圃場では使用しないこと。

(8) 散布後、曇天、降雨日が長く続くと効果が劣ることがあるので、留意すること。

### <周辺作物に対する薬害に関する注意>

(9) 周辺作物にかからないように注意すること。

適用拡大後の製品情報の詳細はこちら [\(農薬製品・安全データシート \(SDS\) 一覧\)](#) からご参照下さい。

以上